

2月定例教育委員会 会議録

日 時	平成30年2月14日（水） 午前9時30分～午前10時00分
場 所	9階会議室9-2
出席委員	小林教育長・小宮山職務代理者・原委員・堀委員・市川委員
出席事務局職員	小林教育部長・嶋田教育総室長・望月生涯学習室長・塩澤総務課長・松田学校教育課長・照沼教育施設課長・本田甲府商業高等学校事務長・碓井甲府商科専門学校事務長・飯田スポーツ課長・本田図書館長・村田総務課課長補佐・芦川総務課課長補佐・鷹野総務課係長・杉山総務課主任
傍 聴 人	1名
署名委員	
委員会書記	

・会議録署名委員の指名 堀委員

・1月定例会会議録の承認 原案のとおり承認

小林

堀

小宮山

市川

原

1 開会

小林教育長

これより、2月定例教育委員会を開会します。

(1) 教育委員あいさつ

堀委員

みなさん、おはようございます。立春が過ぎたとはいえ、まだまだ寒い日が続いております。日本海側を中心とした、大雪に見舞われた地域は、さぞや大変な思いをされていることと胸が痛みます。暖かい春が一日も早く訪れることを願う毎日です。その寒さの中、先月28日から「富士の国やまなし国体」が5日間にわたり開催され、選手達の輝かしい活躍で、大感動のうちに幕を閉じました。主催者、関係者の方々には心より感謝申し上げます。その興奮冷めやらぬうちに、今度は、今月9日から始まった平昌オリンピックで、世界中が沸きかえっています。勝利を目指して真剣に競い合う選手たちの姿は、国境を超えて皆に感動を与えると共に、本来人間が持っている平和への意識を高めさせてくれます。このオリンピックにより、これからの世界が、争いの方向から平和の方向へと大きく方向転換する好機になって欲しいと強く願うものであります。

さて、先日は第4回甲府市民文化祭の開幕式に参加させていただき、展示部門の作品を鑑賞させていただきました。

どれも素晴らしく、作品1つ1つに込められた作者の思いと、作り上げるまでの過程を思いますと、感慨深いものがありました。この伝統が若い世代にも受け継がれ、更に発展し続けることを祈り、応援していきたいと思います。

文化芸術分野は幅広く奥深いものですが、お笑い芸もその1つに上げられると思います。

現在放映中のNHKの朝ドラ「わろてんか」は、明治後期、大阪を笑いの都にと夢を抱く主人公てんが、日本初の女興行師となり、笑いを一大ビジネスに成長させる過程を、面白おかしく描いたドラマです。吉本興業の創始者、吉本せいさんがモデルだそうです。私も毎朝、お弁当作りや食事の支度をする傍ら、ほとんど欠かさず見えています。脚本家の吉田智子さんがこう言われています。「笑いを勇気に人は前に踏み出せる。人は誰でも生きていれば嫌なこと、落ち込むこと、挫折しそうなことがたくさんあるはず。でも、へこたれそうになった時こそ笑って欲しい。人は幸せだから笑うのではなく、笑っているから幸せになれるのだと思います。日々の暮らしをより楽しくしてくれるパワーが笑いにはあるのです」と。昔から、笑う門には福来るといわれますが、正にその通りだと思います。

震災の時、お笑い芸人たちが、慰問先で被災者の方々を爆笑させて励ましたり、戦時中も「わらわし隊」という芸人慰問団が戦地で熱狂的歓迎を受けたそうです。笑いは最強の励ましといえるのかもしれませんが。

今やお笑い芸人に憧れ、それを目指す若者も多くいますが、芸人さん達の中には子供の頃に体型や容姿をばかにされ、いじめを受けていた人も多いようです。しかし、お笑い番組に登場する芸人たちが、自分の弱点を見事に笑いに変えている姿に感動し、お笑いを目指すきっかけになったのだそうです。ある芸人さんは、子供たちが楽しい学校生活を送れる為に、舞台に立つ傍ら、漫才やコントを用いた教科学習の実践やコミュニケーション教育の開発に携わり全国の学校でも講演を行う「お笑い芸人兼教育者」として活躍しているそうです。逆境を跳ね返すお笑いの逞しさ、そのパワーの凄さに脱帽です。また、お笑いにはボケとツッコミがありますが、ツッコミは日本独自のもので、外国人にとっては「ボケの内容をいちいち説明する余計なもの」と考えるそうです。なぜ日本でツッコミが発達したかということ、漫才やコントを見てボケの内容がわからなかったお客さんを置いてきぼりにしないためなのだそうです。日本では、皆で力を合わせることや、他人を思いやること、まとまって何かをすることが、今でも大切にされています。その思いやりの心がツッコミを発展させたのではないかとされています。

考えてみると、日本には他の国にはない、誇れる文化がたくさんあります。今年の四月から、道徳の教科化が導入されますが、日本が誇れるお笑いの文化も視野に入れながら、相手の身になって考え、行動できる人間性と自尊感情を高める授業を期待しております。そして私たちも、心身の健康のため、コミュニケーションを円滑に保つため、人を幸せにする笑いを日々の生活の中で実践していきたいと思います。以上であいさつを終わらせていただきます。ありがとうございました。

(2) 会議録署名委員の指名

小林教育長

会議録の署名委員は、堀委員を指名します。

(3) 会議録の承認

小林教育長

平成30年1月10日の定例教育委員会の議事録をご確認いただきまして、ご承認いただけますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは決定いたします。

【原案どおり決定】

(教育委員会承認)

2 議事

(1) 議題

小林教育長

議題 第2号 甲府市学校職員初任給、昇格等の基準に関する規則の全部改正について 資料に基づきまして、松田学校教育課長より説明をお願いします。

(松田学校教育課長より資料に沿って説明)

小林教育長

説明が終わりました。これより質疑に入ります。ご意見・ご質問等ありませんか。

よろしいでしょうか。それでは、原案のとおり決定いたしました。

【原案どおり決定】

(教育委員会決定)

(2) 報告

小林教育長

報告 第2号 なでしこ賞・撫子賞の表彰について 資料に基づきまして、松田学校教育課長より説明をお願いします。

(松田学校教育課長より資料に沿って説明)

小林教育長

説明が終わりました。これより質疑に入ります。ご意見・ご質問等ありませんか。

原委員

表彰者は、各学校長が推薦をるところから始まるようですが、推薦にあたって、校長先生がひとりで選ぶのか、学校関係者と相談をするのか、何か基準があれば教えてください。

松田学校教育課長

従来の表彰の概念にとらわれない賞ですので、具体的というよりは、望ましい人間関係ですと

か、模範となるような善行をしたというような抽象的なものになっています。年度当初、この賞の主旨等を全ての学校、職員に周知をはかり、10～11月にかけて、それぞれの学校で教員から学年やクラスで該当する児童・生徒をあげ、最終的には校内の会議を経て、学校長から市教委に報告をします。

原委員

陰日向なくがんばっている子どもたちがこの賞を受賞できれば、とても励みなると思いますので、先生方にはよくみていただいて、前向きにがんばっている子どもたちに誉をあげていただきたいと思います。

小林教育長

他にありますでしょうか。

堀委員

個人で表彰を受けた方の中に、例えば、小学校で表彰を受けて、さらに中学校でも表彰を受けるということはあるのでしょうか。

松田学校教育課長

小学校、中学校、甲府商業高校それぞれで推薦をしていただきますので、一度表彰を受けた児童・生徒は、再度受賞することができないという取り決めはありません。今年度、受賞した甲府商業の生徒が、お礼の言葉の中で、小学生の時になでしこ賞を受け、このことを励みにがんばり、高校でも受賞することができたと話しておりましたので、再度受賞するということもあります。

小林教育長

他にないでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは原案のとおり確認いたしました。

【原案どおり確認】

(教育委員会確認)

小林教育長

報告 第3号 教員の多忙化解消に向けた「学校閉庁日」の施行について 資料に基づきまして、松田学校教育課長より説明をお願いします。

(松田学校教育課長より資料に沿って説明)

小林教育長

説明が終わりました。これより質疑に入ります。ご意見・ご質問等ありませんか。

小宮山職務代理者

教員の多忙化解消に向けた動向についてお聞かせいただきたいと思います。学校閉庁日という考え方は、気運を高めるということには十分効果的だと思いますが、学校の多忙化解消をアピールするための表向きの印象を受けます。実際の問題である、先生方の仕事の住み分け、また、仕事を減らすための取り組みなどがあれば教えてください。

松田学校教育課長

中教審での12月の中間まとめでは、学校が担うべき業務、学校がやるけれど教員以外が担う業務、学校以外が本来やるべき業務を、かなり具体的に示してきています。ただ、現状は、学校に委ねられていることが多くあります、子どもの安全ですとか、教育内容の質ということを考えて時に、学校がそれらを一気に手放す訳にはいきませんが、国でもそういったことが検討されつつあります。

現在、全県的な取組として、それぞれの市町村、学校でも多忙化改善の委員会等を作りまして、ちょうど昨日本市におきましても行われましたところです。大きな業務の住み分けはなかなか難しいですが、例えば、市教委で行っております会議や研修会、調査等について、県の教育委員会や国から来るものもありますので、統合をどのように図っていくか、登下校時の安全については、外部人材、地域の方々にもどのようにご協力をいただっていくか、また、事務能率向上のための公務システムを今後どのように運用していくのかを検討し、学校現場の意見を確認しているということです。

小宮山職務代理者

少子化の流れで子どもたちを大切にしなければいけないという考え方が、逆に子どもたちを過保護にして、自立心が育っていかないという逆の方向に動いているのではないかと思います。当然それぞれの家庭で、しっかりとした教育をしている家庭もあるかと思いますが、親の教育を含めた中で、中教審で話し合っても、実態が変わらなければ、先生方の仕事は減りません。未来の子どもをつくるために、学校は積極的に、地域と連携して親が教育をしていくような流れを作ってほしいと思います。

3日間の学校閉庁日は、気運を高めるにはいいかと思いますが、実態的には、家庭を含めた中で、先生方の負担の軽減の加速化を甲府市として問いかけていってほしいと思います。

小林教育長

他にはございませんか。

市川委員

今のお話の中で、承知をしておくべきことだなと思いましたのが、教員の仕事というのは、ここまでやったら、ここでおしまいというのはないのですね。ここまでやったら完成だからもういい ということはありません。やればやっただけ先が出てきます。21時には仕事を切上げようと思っても、あれをやっておこう、これをやっておこうと、どんどん時間が延びていく。そういう性質の仕事であるということがひとつ、曲者といえば曲者ですね。

それに加えて、もうひとつ教員の仕事の曲者というのは、子どもが育ったり、何かに成功した

りすると、これはすごい喜びになるのですね。土日もなく部活動の指導をしてきて、例えば大会で優勝した、子どもと泣きながらハイタッチをした日には、今までの苦勞なんてみんな吹っ飛んでしまいます。そういうことで、がんばってしまうのですね。それが、「やりがい」ということで、よくポイントになっていくところですけど、ただ、色々なところで言われていますが、教員の仕事の「やりがい」に頼ってやっているというところは、考え直していかなければいけないところに来ているのかなと思います。

先ほど、松田学校教育課長のお話にあったように、学校の中では職員会議の時間をできるだけ少なくしようとか、文書作りの時間を少なくしようだとか、努力は色々としているのですが、だめなのですね。そうやって時間を縮めても、見付けてやってしまうのですよね。時間が縮まったから今日はよしとはならないで、その分を見付けてやってしまうのです。そのところはなかなか難しいと思います。ただ、先生方はそういった「やりがい」でがんばっているということを知っていただければありがたいと思います。

小林教育長

教員は、子どもと向き合う時間なら、どんなに忙しくても疲れは感じなくて、よろこびの方が大きいものです。子どもと向き合う時間をどう作るかが、これからのポイントだと思います。

まだまだ時間をかけないと出来ない問題だと思いますので、また教育委員会の話題にしていきたいと思います。

他に何かありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは原案のとおり確認いたしました。

【原案どおり確認】

(教育委員会確認)

3 閉会

小林教育長

それではこれもちまして、2月定例教育委員会を閉会します。